

社
SHA

楽
RAKU

神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
全国有数の〈社史コレクション〉を
さらに活用していただくため、
社史の使い方や、社史の楽しさ、
社史情報などをお届けしていきます。

Vol.40

2015/03

「社楽」も40回を迎えましたが、まだ書名を特集したことはありませんでした。そこで、今回は書名が四字熟語になっている社史を紹介させていただきます。

まず自社の仕事内容と関連した四字熟語にした社史をいくつか。

『燃料報国』（ヤンマー70年のあゆみ／1983年刊）は、ディーゼルエンジンの開発に際して、昭和初期から掲げてきた基本理念で、巻頭のカラーページでも説明されています。字は元東大寺管長・清水公照の筆です。ヤンマーからは『豊穰無限』（ヤンマー農機20年のあゆみ／1986年刊）も刊行されています。

『弾性無限』（1969年刊）はバネ製造の日本発条（ニッパツ）の30周年記念として刊行されました。「序文」によると「弾性には限界あるも、弾性の研究開発には限り無く、また、人生には限りがあるも、企業は無限の生命を目指す」とあります。同社からは一文字を変えた書名の『弾性夢限』（ニッパツ70年のあゆみ／2010年刊）も出ています。「あとがき」によると、限らない夢に向かって躍進する企業という意味を込めたそうです。

日清食品の30周年社史『食足世平』（1992年刊）は題字も含め創業者の安藤百福によるものです。「しよくたりて

よはたいらか」と読みます。巻頭の「ごあいさつ」で、戦争直後に「まず食が充足していなければならぬ」と思いを深くしたことにはじまる事業の指針である旨が書かれています。安藤百福は四字熟語を二つ並べた年頭定是（活動指針）を毎年定めて、色紙にもしていました。色紙の一覧は社史にも掲載されています。同社の40周年記念誌の書名も四字熟語の『食創為世』（1998年刊）で、その意味は、いくつかの四字熟語とともに、巻頭グラフのページで説明されています。

『鏝采摛文』（安藤七寶店百年史／1981年刊）は「るさいちぶん」と読みます。「彩りをちりばめ、文様を美しくあらわす」という意味で、満州国建国に際して七宝を献上したとき、初代・国務院総理の鄭孝胥が筆をとったと「序文」にあります。

（裏面に続く）

書名が四字熟語の社史。

(表面から続く)

オフィスや病院などの建築内装に携わる、くろがね工作所の『空間創造』(創業60周年記念/1987年刊)は「人間のあらゆる生活空間の快適で効率的な環境づくりを推し進めること」と「発刊のことば」で説明されています。北陸地方で住宅建設をしている玉家建設の『住往無尽』(2004年刊行)は「住まいのゆくすえ 尽きることなく」と添え書きされています。

切削工具メーカーの『研削琢磨』(オーエスジ―物語/1997年刊)は、新聞に連載していた同社の歴史の企業小説を、そのままの題名にしたと書かれています。ほかに精密機械部品メーカーの『技能伝承』(タカハシテクニア一〇〇年に向かつて/2007年刊)などもあります。

冠詞を付けた『THE 鉄道人生』(伊岳商事50年史/2013年刊)は、鉄道の保線機器を扱っている企業です。保線にかける思いが伝わってくるような社史で、まさに書名のとおり、という印象を受けました。自転車メーカーの社史で『銀輪讃歌』(マエダ工業60周年記念/1982年刊)という書名もありました。

つぎに会社の理念の四字熟語を書名にした社史も、いくつか紹介しておきます。

『一意誠実』(ライオン事務器200年史/1993年刊)は巻頭で「この理念こそ当社の歴史のバックボーンであり、永遠のテーマであることに思いを至し」表題としたと、当時の会長によって記されています。

『創意工夫』(江崎グリコ70年史/1992年刊)はグリコの七訓(社訓)の最初にも示され、創業者・江崎利一による書も巻頭のページに掲載されています。

ほかに『和働入魂』(藤堂工業株式会社四十年の歩み/2002年刊)は、ベアリングの製造などをする同社の基本理念となっている造語で「魂を入れて和して働こう」の意味だと本文中に説明がありました。

『士魂商才』(喜多村石油70年の歩み/1982年刊)は、創業者の遺訓で、繰り返し息子に聞かせたという「商人たるもの、商才は發揮すべきだが、忘れてならないのは武士道の精神である」に拠ります。

『以和為貴』(永井産業の二百年/2002年刊)は聖徳太子の言葉で、江戸時代から紙屋を営む同社のゆかりの地・兵庫県太子町が、聖徳太子と縁があることにより社史としたそうです。

以上、いろいろと例示してきました。

「温故知新」をキーワードに社史を検索してみたら10件以上ヒットするなど、まだまだ四字熟語が書名の社史はあります。

ただ、書架に並べたときには、四字熟語が目立つより、社名が目立つた方が本を探す上でありがたいという図書館員の本音を「画蛇添足」ながら付記しておきます。

(科学情報課・高田)

●お問い合わせ先

神奈川県立川崎図書館 科学情報課

〒210-0011

川崎市川崎区富士見2-1-4

電話：044-233-4537

FAX：044-210-1146

<http://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>